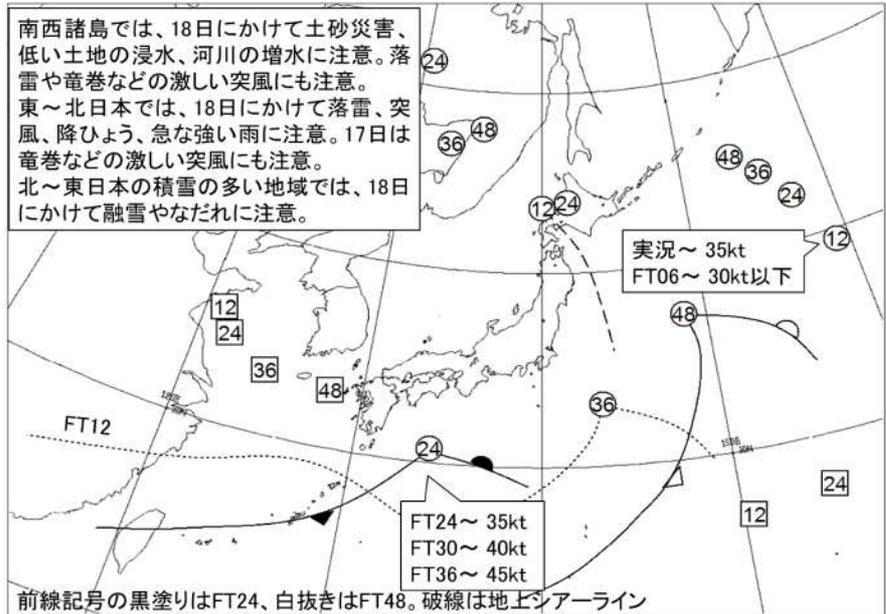


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5520～5640m のトラフが日本海～北日本にあって北東進。対応する日本海の低気圧からシアーラインが北日本にのびている。シアーライン周辺には、下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となっている。北～東日本では、雷を検知し、強い雨を解析。
- ② 華中～南西諸島にかけて前線がのびている。前線に向かい下層暖湿気が流入し、大気の状態が不安定。前線近傍では、雷を検知し、激しい雨を解析。
- ③ 衛星画像では、日本海西部～中部に黄砂が確認でき、西～北日本で黄砂を観測しており、視程 10km 未満となっている所もある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは、17日は日本海～北日本を北東進。対応する低気圧は17日夜に北海道へ進み、低気圧からのびるシアーラインが北日本付近を通過し、日本の東へ抜ける。下層暖湿気(850hPa θ e309K以上)の流入により、シアーライン近傍では大気の状態が非常に不安定となる。東～北日本では17日は、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ② 1項②の前線は、17日夜には日本の南へのびる。前線に向かい下層暖湿気(850hPa θ e336K以上)が流入し、南西諸島では、大気の状態が非常に不安定となって、雷を伴った激しい雨が降り、大雨となる所がある。南西諸島では18日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 500hPa 5580～5640m のトラフが、18日は深まりながら西日本から日本の東へ進む。東日本には500hPa-18℃以下の寒気が流入し、大気の状態が不安定となる。また、1項①のトラフは切離され、18日は日本海北部をゆっくり北上する。北海道には500hPa-21℃以下の寒気が流入し、大気の状態が不安定となる。東～北日本では18日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ④ 北～東日本では、18日にかけて850hPaの気温が平年に比べ5～10℃高い状態が続く。北～東日本の積雪の多い地域では、18日にかけて融雪やなだれに注意。
- ⑤ 西～北日本では、18日にかけて広い範囲で黄砂の飛来が予想され、視程5km未満となる所がある見込み。視程悪化に伴う交通障害などに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ①大雨ポテンシャル(18時からの24時間): 奄美100mm。②波浪(明日まで): 伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。